

「ネットで呼べるお坊さん」はこんなに増えている (法事や法要向けに僧侶を派遣する主なサービスをまとめた)

サービス名	価格例	登録僧侶数など	派遣可能エリア	実績	特徴
お坊さん便 (シンプルなお葬式)	35,000円(初回) 45,000円(2回目から)	1100名	全国	初年度(2013年)から比較して、2017年度は問い合わせ件数が18.6倍に増加	2015年12月、アマゾンに出品し話題に。それを機に提携僧侶数、問い合わせ数ともに急増。戒名授与はプラス2万円~。僧侶個人ではなく寺院の紹介という形をとっている。戒名授与は別料金がかかる。
てらくる (小さなお葬式)	45,000円	提携寺院数: 1000以上	全国	非公表	運営会社は仏教や葬儀分野の出版業からスタート。葬儀や法要への派遣のほか、戒名のみも受け付けている。
僧侶手配 (いい葬儀)	45,000円	非公表	全国	非公表	利用後に檀家となるユーザーも多い。別料金の戒名授与は住職および副住職が行う。
お坊さん.jp (寺院紹介)	30,000円 (別途交通費5,000円)	提携寺院数: 700	関東から近畿	年間派遣数: 4000件(2017年)	「イオンのお葬式」の葬儀プランを利用した人を対象に、寺院を紹介する。
寺院紹介 (イオンのお葬式)	45,000円~ (お布施金額は目安)	宗教法人で本山に属した寺院のみ	全国	非公表	



は、販売窓口を一つ増やしたに過ぎなかった。しかし、仏教界からの反発を含め、注目度は急上昇。事業の一つの潮目になったのは事実(同前)と話す。

もともとインターネット上で口コミレビューサイトを運営していた09年創業のみんなびびは、13年、特定寺院との付き合いがない人でも定価で簡単に僧侶を呼ぶこともできる、「お坊さん便」事業を立ち上げた。

「アマゾンへの出品後、僧侶の方からのお問い合わせも激増しています(同前)。アマゾン出品時点で350人程度だった「お坊さん便」の登録僧侶の数は、現

アマゾンに出品されている「お坊さん便」。今年2月より出品価格が変更された。

「お坊さん便」拡大の事実を、2年前に激しく反発した全日仏はどう見ているのか。取材に対して同会広報文化部長は、「お坊さん便」に対する見解や、その販売を取りやめてほしいという方針に変わりはありません。アマゾンへ2年前に出した販売停止要請にはまた返事がなく、われわれとしては「回答待ち」という立場です」と答えた。

そのような全日仏の姿勢をよそに、時

葬式定価制の寺も出現

「お坊さん便」への注目の高さは、従来の葬儀や法事のあり方に不明瞭な部分があったことの裏返しだと思います。特にこれまでお寺と付き合いがない人は、いざ僧侶を呼ぶとき、どこへ連絡していいのかわからない。その意味で「お坊さん便」は人々とお寺をつなぐ新たな窓口であって、お寺業界と対立するものではないと考えています(同前)

代だけは急速に動いている。何より前述の通り、一般の僧侶たちは自ら「お坊さん便」の派遣僧侶になりたいと殺到している状況なのだ。すでにネットを介して僧侶を派遣するサービスは「お坊さん便」以外にも相当数が立ち上がっており、百花繚乱の戦国時代といった様相さえ呈している。

埼玉県熊谷市・見性院の橋本英樹住職は、自ら複数の僧侶派遣サービスに登録し、自身の寺でも檀家制を廃止して葬儀には8万円からの定価を設定している。「もう昔からの檀家制にあ

ぐらをかき時代は終わり。実際、都市部を中心に直葬(僧侶を呼ばない葬儀)も激増しています。これからお寺は、派遣でも何でもして人々と新たなご縁をつくる努力をしないと、未来はありません(橋本住職)

一方、東京都世田谷区で昭和5年から続く葬儀社・佐藤葬祭を営む佐藤信頭代表は、急増するネット葬儀社にこう苦言を呈す。

「ネット業者は競争過多。ダブル・ブッキングや、希望していた宗派の僧侶が来ないなどの雑な仕事も目立ちます」

また、あるネット葬儀社に登録する僧侶は、「ネット業者は定価の利用料から4割ほど抜くところが多い。ユーザーは安くて安心だろうが、僧侶側には疲弊感もある」とこぼす。

ただ、旧来型の地縁社会の崩壊と、個の時代の進行は止まらず、僧侶派遣もその流れの中で拡大しているビジネスであることは事実だ。仏教界はこの波にどう対応し、そしてまた日本人は、死の現場で何を選んでいくのか。

サピオ  
2018.5.6小学館  
掲載

ネット派遣  
アマゾン「お坊さん便」vs仏教界  
騒動勃発2年、いまだ停戦に至らず

法要利権をめぐる大紛争

葬儀や法事のお布施はお気持ち。で——これが古くからあった常識である。そんな常識を覆す、定価3万5000円のアマゾン「お坊さん便」が登場して2年経つ。当時、伝統仏教の連合組織・全日本仏

教会(全日仏)が「お布施はサービスの対価ではない」と定額表示に反対し、販売停止を求めると、「アマゾンお坊さん便vs仏教界」として社会の注目を集めたあの騒動はこうなっているのか。

「2017年8月末時点で、「お坊さん便」への累計お問い合わせ件数は、サービス開始当初から18・6倍になりました」

ネット通販のアマゾンに「お坊さん便」を出品し、サービスを実際に運営する

株式会社みんなびびの広報担当者は、今回筆者の取材にそう答えた。

「お坊さん便」それ自体は、ITベンチャー企業であるみんなびびが13年から運営していた事業。15年12月に行ったアマゾンへの出品登録



小川寛大  
OGAWA Kanda  
葬儀・法要問題編集長

[PROFILE] 1979年、熊本県生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。宗教業界紙「中外日報」を経て、季刊「宗教問題」編集長に。